

内閣総理大臣杯争奪
第38回日本車椅子バスケットボール選手権大会
個人トータル表

2010年5月5日 9時50分開始

準決勝

東京体育館 D - 6

NO EXCUSE 57
(東京)

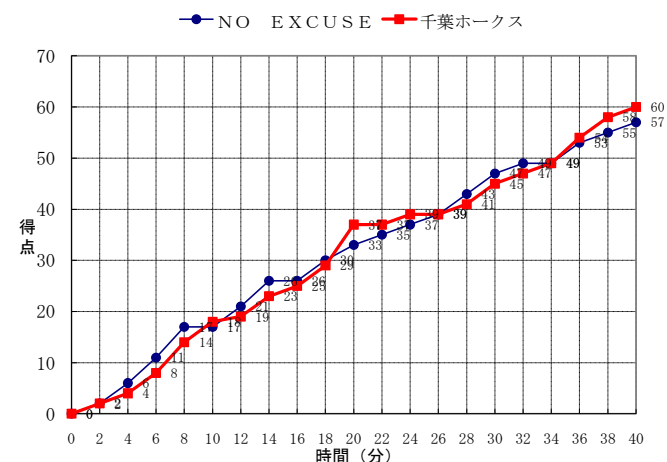
17 1クォーター 18
16 2クォーター 19
14 3クォーター 8
10 4クォーター 15

◎
60 千葉ホークス
(関東)

番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則	番号	氏名(持ち点)	得点	3P	2P	FT	RB	AT	反則
* 4	佐藤 聡 (1.0)	9	0	4	1	-	-	3	* 4	土子 大輔 (4.0)	16	0	7	2	-	-	2
* 5	佐藤 大輔 (2.5)	3	0	1	1	-	-	1	5	植木 隆人 (2.0)	-	-	-	-	-	-	-
6	丸山 範晃 (3.0)	-	-	-	-	-	-	-	6	下村 浩之 (1.0)	-	-	-	-	-	-	-
* 7	寺田 正晴 (3.0)	2	0	1	0	-	-	1	* 7	田中 恒一 (3.0)	6	0	3	0	-	-	2
8	大嶋 義昭 (1.0)	0	0	0	0	-	-	0	8	坂井 大 (2.0)	-	-	-	-	-	-	-
9	安藤 翔治 (1.0)	-	-	-	-	-	-	-	9	阿部 匡志 (2.0)	4	0	2	0	-	-	0
* 10	神保 康広 (3.0)	20	0	10	0	-	-	3	10	千脇 貢 (2.5)	6	0	3	0	-	-	3
11	三浦 恭寛 (4.5)	-	-	-	-	-	-	-	12	田仲 幸生 (1.5)	-	-	-	-	-	-	-
12	菅澤 隆雄 (4.5)	17	0	8	1	-	-	2	* 13	森 紀之 (2.0)	2	0	1	0	-	-	2
* 13	及川 晋平 (4.5)	6	0	3	0	-	-	0	* 14	鈴木 明将 (3.5)	15	0	5	5	-	-	3
17	大曾根 佳太 (4.5)	-	-	-	-	-	-	-	* 15	京谷 和幸 (1.0)	6	0	3	0	-	-	4
18	池田 貴啓 (3.5)	-	-	-	-	-	-	-	16	伊東 容臣 (4.0)	5	1	1	0	-	-	1
19	佐藤 剛基 (4.0)	-	-	-	-	-	-	-	17	宇埜 雄太 (1.0)	-	-	-	-	-	-	-
コーチ	及川 晋平								コーチ	菊地 哲博							
Aコーチ	宮本 有里恵								Aコーチ	猪田 博敏							
マネージャー	杉山 美徳								マネージャー	牛込 公一							
マネージャー	加藤 多恵子								マネージャー	左東 摩子							
マネージャー	山下 正信								マネージャー	浪川 明美							
合計		57	0	27	3	0	0	10	合計		60	1	25	7	0	0	17

主審： 門川 浩人
副審： 菅野 英輔
副審： 立田 裕志

得点経過



〔戦評〕

[1Q] 昨年の準優勝チームであり、今年こそはの優勝狙う千葉ホークスと、今大会の”台風の目”といわれ注目チームNO EXCUSEとの、目が離せない試合が始まる。まず、NOEXC#5から#13のシュートが決まる。すぐさま千葉の#14のシュートで同点とする。両チームとも#10を中心として得点を重ねていく。対する千葉も#7、#15、#4のシュートが決まり、一進一退の状況となっていた。中盤、NOEXC#7の激しいディフェンスで千葉#4は車輪交換を行う。お互いフリースローの機会を得るが、全て決めた千葉に対して、NOEXCは数本外してしまう。最後に千葉#10の速攻が決まり、17対18の千葉リードで終了する。

[2Q] 開始早々からお互いに激しいディフェンス合戦となるが、NOEXC#10のシュートが決まり逆転する。その後#10が得点するも、NOEXCのファウルが影響して点差を開けることができない。千葉は#10、#15のファウルが重みTOを取る。しかし、試合再開後すぐに千葉#10がファウルをすると、千葉は#10から#7にメンバー交代をする。どうやら千葉#10の調子が悪いのか、ファウルを誘われる感じで、NOEXCに狙われているようだ。しかし、仲間のファウルを挽回するかのように千葉#4が連続得点をする。再度、千葉#4のトラブルが起こる。しかし、流れを掴むかと思われた千葉だが、NOEXC#13のプレーもあり、簡単には流れを渡すことはないが、NOEXCも流れを掴みきれない感じがあり、33対37で千葉のリードが少し広がる。

[3Q] これ以上の点差を開けられたくないNOEXC。千葉は今まで完璧だったフリースローが入らず、同点のまま均衡した試合となる。残り3分、試合の流れがNOEXCに傾きかけたため、千葉は流れを断ち切るためにTOを取った。両チーム得点を取り合い、終始シーソーゲームとなるが、千葉#15が4回目のファウルを犯し、#9と交代をする。終了間際、千葉#10のブザービーターにより、47対45のNOEXCリードで終了する。

[4Q] 千葉は#16を下げ、#4を再度投入。改めて高さ勝負で挑む。第3Qの流れのまま、NOEXC#12が得点をし、さらに点差を広げる。千葉もすぐに#14がシュートを決め追撃の手を緩めない。中盤は点の取り合いとなったが、千葉#16の3Pシュートが決まると、流れは千葉に傾き始めた。終了間際、NOEXC#10の痛恨のファウルによるフリースローを、千葉#14は冷静に2本とも決めて点差を保った。57対60で千葉が勝利し、念願の優勝に向けて、決勝戦にコマを進めることになった。

(担当：鈴木／笹本／津野／武田)